

ANNUAL
REPORT
2024

KYOTO
SEIKA
UNIVERSITY
INTERNATIONAL
MANGA
RESEARCH
CENTER

京都精華大学国際マンガ研究センター

年次報告書

2024



京都精華大学国際マンガ研究センター
KYOTO SEIKA UNIVERSITY
INTERNATIONAL MANGA RESEARCH CENTER

京都精華大学国際マンガ研究センター

年次報告書

2024

第1部 はじめに	04	巻頭言 [小泉真理子]
------------	----	-------------

第2部 展示・イベント等事業レポート	08	第1章 展覧会	What an OHINATAful World ～この素晴らしいおひなたごうの世界～
	12		のこす!いかす!! マンガ・アニメ・ゲーム展
	16		マンガノパンデミックWeb展2024
	22	第2章 イベント	トークイベント「おひなたごう×吉村和真」
	23		「レコード大好き小学生カケル」 レコードリスニングパーティー & かとうれい子ミニコンサート
	24		おひなたごうによる「What an OHINATAful World ～この素晴らしいおひなたごうの世界～」ギャラリートーク
	25		日本マンガ学会第23回大会
	26		ルノールメール トークショー マンガを受け継ぐ: マンガからMangaへ、そしてMangaからマンガへ
	27		マンガカフェ シーズン2 第3回「2024年のマンガ界を振り返るぞ!」
	30	第3章 その他の事業	『マンガって何?』出版事業
	32		国内外における展示等協力事業
	34		マンガ資料のアーカイブ事業
	35		アニメーション資料のアーカイブ事業
	36		京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター 所蔵資料および画像データ提供一覧
	38		原画 ^(ダッシュ) プロジェクト
	39		IMRCメンバー業績等 (2024年1月-12月)

第3部 おわりに	42	あとがき [吉村和真]
------------	----	-------------

第一節 はじめに

巻頭言

この度は、京都精華大学国際マンガ研究センター（以下、IMRC）の年次報告書2024をご覧頂き、誠にありがとうございます。本報告書が、マンガの新たな可能性を見出す一助となれば幸いです。

IMRCは、2024年もこれまでの約20年にわたる活動をさらに深化させるべく、研究活動と国際的な交流の強化に努めてまいりました。マンガという表現形式は、時代や地域を超えて人々を結びつけ、新たな創造を生み出す力を持つことを、本書を手にとられた皆様はご理解を頂いていることと存じます。私たちは、マンガの可能性をさらに広げることを目指して、実践的活動と学術研究との両面から活動に取り組んでまいりました。国内外の研究者やクリエイターによるシンポジウムの開催、展覧会やコンペティションの実施等、多角的なアプローチを試みました。

本年より、さらに強化した取り組みの一つに、マンガやアニメの歴史と技術の継承を目的としたアーカイブ構築があります。京都国際マンガミュージアムとIMRCは、文化庁メディア芸術事業への積極的な関与等を通じ、設立以来一貫して、資料の収集、保存、活用を実践してまいりました。近年では、多くの出版社が参画する「一般社団法人マンガアーカイブ機構（MAC）」が設立される等、当該アーカイブの価値に対する社会的な認識も高まっています。IMRCは当該機構においても、中心的な役割を担っています。さらにアニメに関しても、制作資料の高精細なアーカイブの構築に着手するとともに、全国、そして世界で標準化されたメタデータを検討する研究会も立ち上げました。これらの活動は2025年も引き続き推進してまいります。

加えまして、出版活動を通じて、多様な視点からマンガの魅力を発信することもいたしました。京都国際マンガミュージアムと共同で、『マンガって何？マンガでわかる マンガの疑問』（青幻舎）を上梓いたしました。本書では、マンガの歴史や制作方法、ビジネス等の様々な切り口で、「マンガとは何か」を考えています。

私は、メディアビジネスを専門とする一人の研究者として、2024年という年はマンガの流通形態の変化と重要性を認識した年でした。マンガを読みたいと願う人々に作品を届けるためには、その作品の魅力に加えて、流通システムが適切に機能する必要があることを改めて考えさせられました。

このことを痛感したのは、ある経験がきっかけでした。私は京都精華大学マンガ学部の授業「メディア産業論」において、マンガ雑誌について講義を行う機会がありました。マンガ学部の学生といえども、現在ではマンガ雑誌を定期購読している学生は少なくなっています。そのため、実物を示しながら説明しようと考え、授業当日の朝に最新号の『週刊少年ジャンプ』を購入しようとコンビニへ向かいました。ところが、単行本の『ONE PIECE』（ワンピース）最新刊を除き、雑誌や書籍は一切置かれていませんでした。他のコンビニも訪れましたが、同じ状況で

した。結局、授業に遅れそうになり、その日は購入を断念しました。紙の雑誌や書籍の販売が停滞し始めたのは1996年頃からの傾向であり、電子書籍市場が成長を遂げて久しいですが、マンガの流通経路の転換が遂にここまでに及んだのかと衝撃を受けました。出版取次大手の日本出版販売が、販売の不振と物流コストの高騰を背景に、2025年2月からコンビニへの雑誌や書籍の配送を終了する決定をしたことも頷けました。

マンガ雑誌というものは、これまで長年に亘り、読者が好きな作品以外の新たな作品と出会う場として機能してきました。今後はその役割は、マンガ雑誌のデジタル形式というよりは、SNSをきっかけとした新たな出会いが担っていくのかもしれない。デジタル技術を活用し、時代の変化に対応した新しい流通モデルが次々と誕生することが期待されます。いずれにしても、マンガがこれまでも、そしてこれからも人々に愛され続けることは変わらないでしょう。もう一つ、マンガの流通に関して忘れられない出来事があります。それは、米国の国際ブランドのクレジットカードによる国内コンテンツ事業者への決済サービスの中止です。例えば、絶版マンガを配信するサイト「マンガ図書館Z」は2024年11月にサービスを停止せざるを得なくなり、大手動画配信サイトでも利用できるクレジットカードが限定され、不便な状態が続いています。

この出来事を読み解くカギは二つあるでしょう。一つは、成人向け作品に対する米国の判断基準と日本の基準の違いがあります。主に日本向けに制作された作品であり、かつ日本の読者向けの販売であるにも関わらず、最終的な決済の段階で米国の基準を適用することとなり混乱が生じています。もう一つのカギは、日本のキャッシュレス決済の未成熟さです。マンガという文化を背景とした商品だからこそ、このグローバルな問題が先鋭化しました。しかし、決済インフラはマンガ販売に限らずビジネス全般や日常生活においても不可欠です。インド等に見られるように、自国の決済インフラの整備が求められるのかもしれない。

このようにマンガを通じて気づかされたのは、マンガがグローバルな文化であるだけでなく、私たちの生活そのものが、グローバルな仕組みの中で成り立っているということでした。文化的商品であるマンガに対して、私たちはその内容の魅力を高めるだけでなく、それをスムーズに享受できる体制を安定して維持していくことも配慮していかなければなりません。

最後になりましたが、本センターの活動は、多くの皆様のご支援とご協力によって成り立っており、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後も、マンガを通じた文化交流と学術的な探究を推進し、より豊かな文化を享受できる未来を築くために尽力してまいります。引き続き、ご支援を頂ければ幸いです。

第2部
展示・イベント等事業レポート
(2024年1月―12月)

第2部 展示・イベント等事業レポート

第1章 展覧会

What an OHINATAful World

～この素晴らしい おおひなたごうの 世界～

基本情報

期間

2024年3月14日[木]～6月25日[火]

開催回数

91日

会場

京都国際マンガミュージアム 2階

ギャラリー 1・2・3

主催

京都国際マンガミュージアム/

京都精華大学国際マンガ研究センター

協力

横手市増田まんが美術館/

(一財)横手市増田まんが美術財団

テキスト執筆

具本媛/ユースギョン

英訳

ユースギョン

担当

具本媛(京都精華大学国際マンガ研究センター)/

ユースギョン(同)/

大谷景子(京都国際マンガミュージアム)/

新美琢真(同)

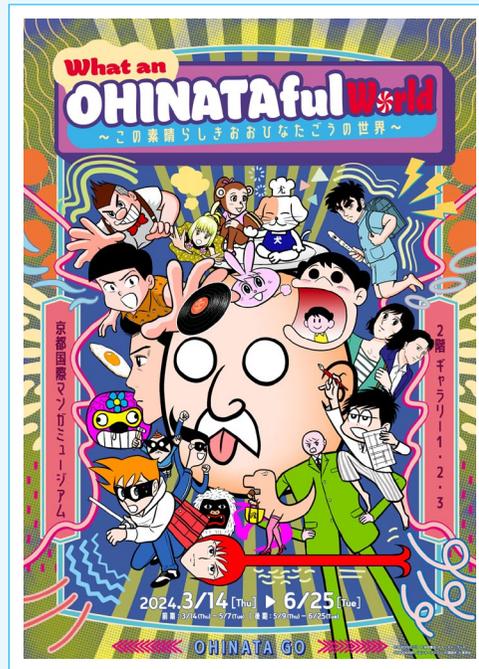
監修

おおひなたごう

実施概要 2022年に、地元である秋田の横手市増田まんが美術館で行われたおおひなたごうの漫画家30周年記念展覧会の巡回展。2022年当時展示されたものをベースに、一部は同じ作品の別ページに入れ替え、また横手展終了後に連載がスタートした「レコード大好き小学生カケル」のパートを追加した内容になっている。●展覧会は、おおひなた本人の監修の元、32年間の漫画家人生の作品を4期に分け、更にデビュー前の子供の頃を一つの期間とした上で、黎明期(デビュー前、量産期(1991年～2001年)、迷走期(2002年～2011年)、激変期(2012年～2020年)、成熟期(2021年～現在)と名づけて展示した。それぞれの分期にはイメージカラーを与え、より明確にその時期の雰囲気を感じさせる展示にしている。●おおひなたごうがデビューした91年は、日本のマンガ業界が黄金期と呼ばれる95年に向けて成長した時期で、迷走期に入っている2005年は単行本が雑誌の売り上げを超え、「激変期」には電子書籍が紙媒体のマンガの売り上げを超えた2019年が含まれている。おおひなたは時代に合わせて変化する作家で、氏の活動を追うと、これらの時期に対応していく一人のギャグ漫画家の姿が明らかになっていき、当時のギャグマンガ界における山と谷の時代を読み解くことができるだろう。●この展覧会は、おおひなたごうの個人の作家人生を披露しながら、その中に見られるマンガ業界の激動の時代を覗き見ることができるものになっていた。

[文責=具本媛]

フライヤー



フライヤー。(デザイン=上岡杏子)

©おおひなたごう©秋田書店©イースト・プレス

©KADOKAWA/エンターブレイン©講談社©集英社

報道

- ・『リアルサウンド』2024年4月6日配信
「おおひなたごう」はやく『レコード大好き小学生カケル』を描き上げたい
漫画家人生を振り返る展覧会開催
(<https://realsound.jp/book/2024/04/post-1622890.html#>)
- ・『毎日新聞』2024年6月18日
「デビュー作原画、私物レコードも おおひなたごうさんの作品展示 京都国際マンガミュージアム」
(<https://mainichi.jp/articles/20240618/ddl/k27/040/293000c>)

関連イベント1

トークイベント「おおひなたごう×吉村和真」

日時

2024年6月1日[土] 14:00-15:30

会場

京都国際マンガミュージアム 1階 多目的映像ホール

出演者

おおひなたごう(マンガ家、京都精華大学マンガ学科新世代マンガコース教授)/
吉村和真(京都精華大学マンガ学部教授)/
ユースギョン[司会]

主催

京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター

関連イベント2

「レコード大好き小学生カケル」レコードリスニングパーティー&かとうれい子ミニコンサート

日時

2024年4月27日[土] 14:00-16:30

会場

京都国際マンガミュージアム 1階 多目的映像ホール

出演者

おおひなたごう(マンガ家)/かとうれい子(歌手)

主催

京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター

関連イベント3

おおひなたごうによるギャラリートーク

日時

1 2024年3月16日[土] 17:00-18:30

2 2024年6月22日[土] 17:00-18:30

会場

京都国際マンガミュージアム 2階 ギャラリー 1・2・3

出演者

おおひなたごう(マンガ家)/具本媛(京都精華大学国際マンガ研究センター)

主催

京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター

会場風景。
(写真撮影=
ディレクターズ・ユニブ)





会場風景。
(写真撮影=
ディレクターズ・ユニブ)



のこす!いかす!! マンガ・アニメ ゲーム展

基本情報

期間

2024年11月23日[土]–2025年3月31日[月]

開催日数

101日

会場

京都国際マンガミュージアム 2階
ギャラリー 1・2・3

主催

文化庁/京都国際マンガミュージアム/
京都精華大学国際マンガ研究センター/
立命館大学ゲーム研究センター

共催

一般社団法人日本アニメーター・演出協会
(JAniCA)/
一般社団法人日本ゲーム展示協会

協力

日本ゲーム博物館(株式会社小牧・イウェイ
企画)/大阪樟蔭女子大学美術学研究室/
すがやみつる/株式会社小学館集英社
プロダクション/株式会社タイトー/
株式会社セガ/株式会社プロダクション・
アイジー/シンエイ動画株式会社/
有限会社六方/認定NPO法人
アニメ特撮アーカイブ機構

テキスト執筆

イトウユウ[マンガ分野]/大坪英之[アニメ分野]/
小出治都子[ゲーム分野]/尾鼻崇[ゲーム分野]

英訳

キャシー・セル

「ゲームセンターあらし」イラスト執筆

毛利和昭[アニメ風「あらし」]/
Furuya Yukiko [ゲーム風「あらし」]

ポスター・チラシデザイン

綱島卓也

アートディレクション

綱島卓也

グラフィックデザイン

綱島卓也 [INTRODUCTION/マンガ分野/
アニメ分野]/

服部憲治 (prizmas design) [ゲーム分野]

空間構成

イトウユウ[マンガ分野]/大坪英之[アニメ分野]/
服部憲治[ゲーム分野]

各分野ワーキンググループ

[マンガ分野]イトウユウ(京都精華大学国際マンガ
研究センター)/新美琢真(京都国際マンガ
ミュージアム)

[アニメ分野]大坪英之(一般社団法人

日本アニメーター・演出協会)

[ゲーム分野]小出治都子(大阪樟蔭女子大学/
一般社団法人日本ゲーム展示協会)/尾鼻崇

(立命館大学/一般社団法人日本ゲーム展示協会)/

手塚武(大阪国際工科専門職大学/株式会社

ムゲンコンボ)/半澤雄一(日本ゲーム博物館)

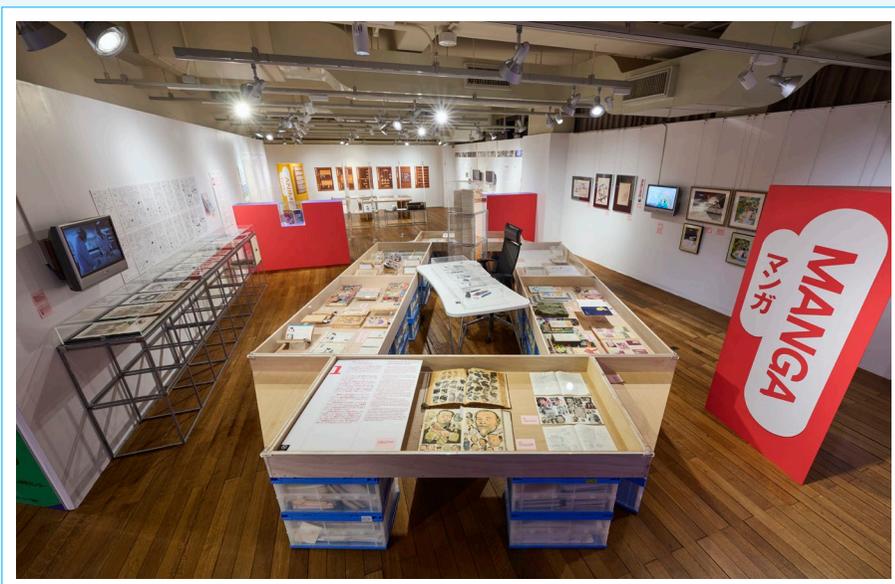
実施概要 マンガやアニメ、ゲームといったいわゆるポピュラーエンターテインメントは、特に2000年代以降、ファンのためだけの単なるサブカルチャーではなくなりつつある。その結果、これらは現在、アカデミズムや国の文化政策においても重要な対象となっている。●文化庁は、マンガ・アニメ・ゲームを「メディア芸術」の一部と位置付け、10年以上にわたり、様々な形で、関連する資料のアーカイブ事業を行ってきた国の機関である。IMRCのメンバーも、そうした事業には、長年深く関わってきた。●本展は、その文化庁によるメディア芸術振興のひとつである「メディア芸術連携基盤等整備推進事業」の成果の活用を目的に企画された。つまり、マンガ・アニメ・ゲームのアーカイブにおいて、どのようなモノが、どのような形でアーカイブされているのかといった現状を知ってもらうことをひとつの目的としている。●しかし、本展は、アーカイブの「正解」を示しているわけではない。今後、何をどのように集めるのか、つまり〈のこす〉のか、そして、それらをどのように〈いかす〉のか、そのあり方や意義について、来場者にも考えてほしい、ということこそを目的としている。実際、「メディア芸術」のアーカイブに関する意見を募るコーナーも作ったが、様々な言語で、多くの意見が寄せられた。●本展はまた、「メディア芸術連携基盤等整備推進事業」に関わっている、マンガ・アニメ・ゲームの研究者が、それぞれの分野のパートを担当するという、オムニバス映画的な制作方式を採用した。定期的に合同会議が持たれることで、それぞれの分野が持つ可能性や困難を互いに学んだが、三者の研究・アーカイブ関係者が協働するという機会は、これまでほとんどなかった。その意味でも貴重な機会だったと言える。

[文責=伊藤遊]

展示構成

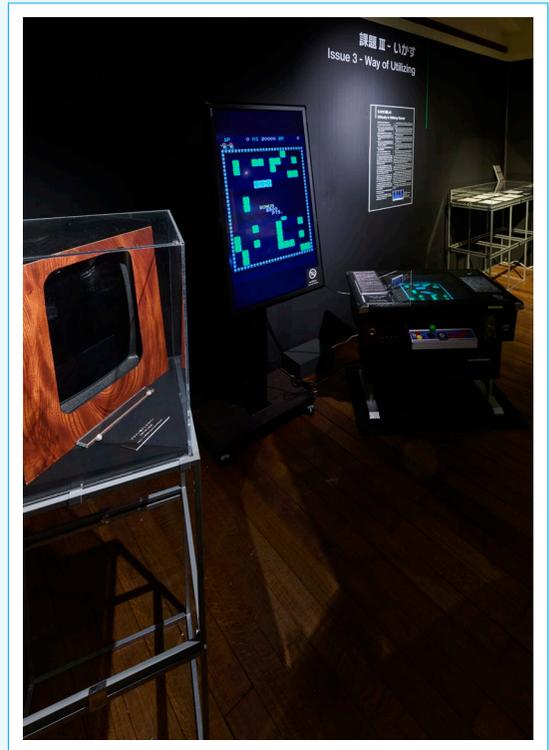
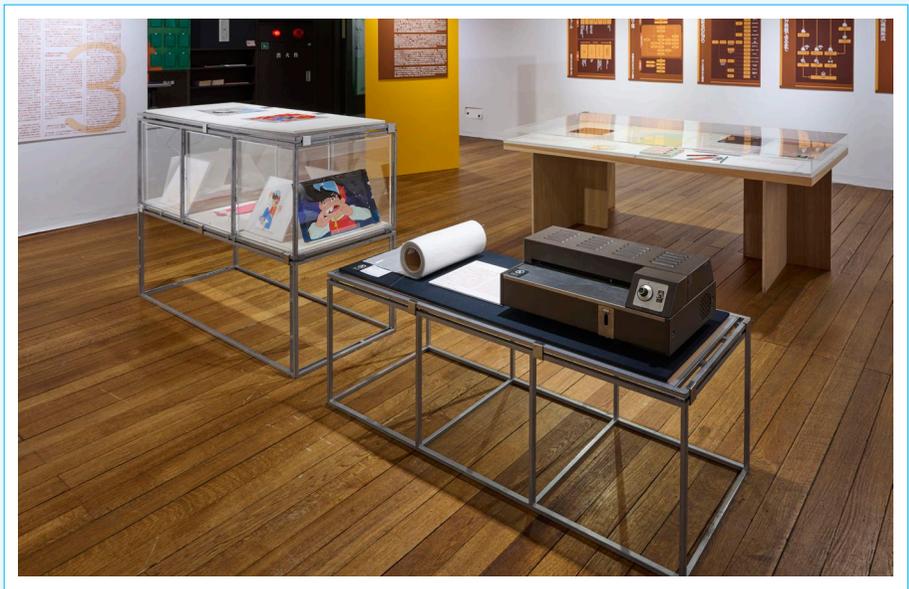
- ・【すがやみつる「ゲームセンターあらし」について】
- ・【INTRODUCTION】
文化庁によるメディア芸術振興——「メディア芸術連携基盤等整備推進事業」
メディア・芸術の創造・発信プラン
マンガ・アニメ・ゲームのアーカイブ機関等の連携
メディア芸術連携基盤等整備推進事業の成果
- ・【マンガ】
1 何を〈のこす〉!? ～マンガができるまで～
2 被災するマンガたち
3 どう〈のこす〉? どう〈いかす〉!?
- ・【アニメ】
・ 原口正宏「125ミクロンのアニメ史」
・ 製作スケジュール/アニメの制作工程/アニメの視聴形式の広がり/
テレビアニメが視聴できるまで/テレビアニメの視聴形式/
・ あなたの思い描く「アニメ」はどれですか?
・ シナリオ/絵コンテ/美術設定
・ レイアウト/原画/動画
・ アニメカラーの色彩
・ セル/タップ/硬質色鉛筆/トレスマシン
- ・【ゲーム】
・ ゲームを〈のこす〉〈いかす〉ための課題I 大きさ
・ ゲームを〈のこす〉〈いかす〉ための課題II メンテナンス
・ ゲームを〈のこす〉〈いかす〉ための課題III いかす
- ・【コラム】
・ マンガ・アニメ・ゲームの繋がりが
・ アーカイブ対象として入れづらいもの
・ ユーザーはマンガ・アニメ・ゲームをどのように楽しんでいるか

会場風景。
(写真撮影=浅野豪)





会場風景。
(写真撮影=浅野豪)



マンガ・ パンデミック Web展2024

基本情報

期間

2024年10月1日[火]–

会場

オンライン展覧会

(<https://www.mangapandemic.jp>)

主催

マンガ・パンデミックWeb展2024実行委員会

(安齋科学・平和研究所 /

立命館大学国際平和ミュージアム /

京都精華大学国際マンガ研究センター /

京都国際マンガミュージアム)

展示アドバイザー

しりあがり寿 / 安齋肇

ウェブサイト制作

下元善光 (EIGHTY ONE Inc.)

ロゴデザイン

安齋肇 / 坂本志保

イラスト

しりあがり寿

担当

吉村和真 / 伊藤遊

実施概要 「パンデミック」/「平和」/「パンデミック+平和」をテーマとするマンガ作品を募り(公募期間=2024年10月1日–12月31日)、ヴァーチャル空間で展示する「オンライン展覧会」の第5弾。今回は、22ヶ国・地域72組から、407作品の応募があった。最低だった前々年度の応募作品数(242点)は上回ったが、1000作品を超える他の年度(前回は1069点)に比べると半減以下という結果となった。コロナ禍も、ウクライナ、イスラエル問題も解決したわけではない中、参加作家数が過去最低の11人となった日本をはじめ、全体応募数では減少を見せた一方、昨年6組46作品だったウクライナからは、5組62作品と、作品数では増えていることの意味について、考えるべきだろう。 [文責=イトウユウ]

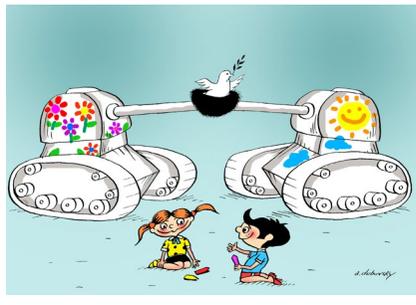
応募者の国・地域と作品数・参加組数

国・地域	作品数	参加組数
アルゼンチン共和国	3	1
イタリア共和国	5	2
イラン・イスラム共和国	6	2
インド共和国	2	2
ウクライナ	62	5
ウズベキスタン共和国	10	1
英国	5	1
エジプト・アラブ共和国	5	1
エストニア共和国	1	1
カザフスタン共和国	1	1
カナダ	1	1
ギリシャ共和国	7	2
シリア・アラブ共和国	4	1
中華人民共和国	112	4
トルコ共和国	13	4
日本	17	11
ブラジル連邦共和国	1	1
フランス共和国	34	3
ブルガリア共和国	42	4
モロッコ王国	2	1
ルーマニア	7	3
ロシア	67	20

▶
応募作品から。

左列1

Olexander Dubovskyi
(ウクライナ)
「Children's Drawings」
テーマ=平和



左列2

Makhmudjon
Eshonkulov
(ウズベキスタン共和国)

「Ballons
and Coronavirus」
テーマ=
パンデミック+平和



左列3

SともY
(日本)
「国境を作るもの」
テーマ=平和

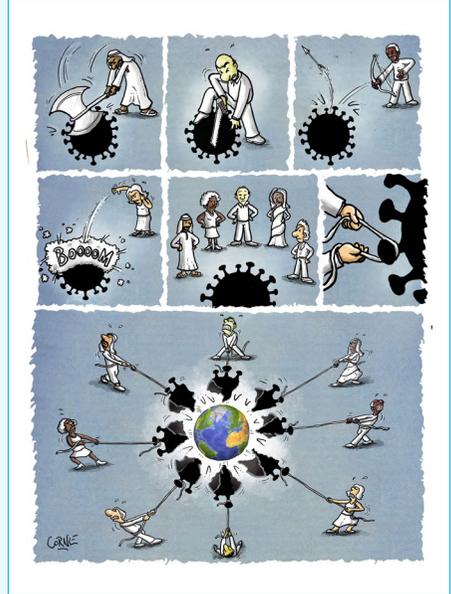
右列1

スナオカミ
(日本)
「一緒にいるよ」
テーマ=パンデミック



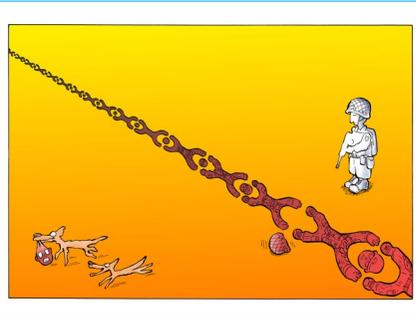
右列2

Santiago Cornejo
(アルゼンチン共和国)
「[[無題]]」
テーマ=パンデミック



右列3

Yury Kosarev
(ロシア)
「конверсия[変換]」
テーマ=平和



ウェブサイト
トップページの
スクリーンショット画像。



マンガ作品募集 Call for submissions
2024.10.1 Tue - 12.31 Tue

展示期間 Exhibition period
2024.10.1 Tue -

レポート / Report 2024年10月23日
マンガ感染症患者数 0人
Number of manga fever cases 0

2024.12.31
マンガ作品募集
Call for submissions

応募する / Apply

開催趣意
Purpose of the Exhibition

Go to Gallery

展示会場のご案内
Gallery

Go to Gallery

しりあがり巻による作品例 / Examples by Shiriagari Kotobuki

しりあがり巻による作品例 / Examples by Shiriagari Kotobuki



2024年10月23日
しりあがり巻による作品例 / Examples by Shiriagari Kotobuki

Copyright © Shiriagari Kotobuki. All rights reserved.

第2部 展示・イベント等事業レポート

第2章 イベント

トークイベント 「おおひなたごう× 吉村和真」

実施概要 「What an OHINATAful World ～この素晴らしいおおひなたごうの世界～」関連イベントのひとつとして実施されたイベント。●マンガ家だけでなく、大学教授としての顔も持つおおひなたごう。シュールなギャグマンガを得意とするおおひなた氏とは一見一致しないような、大学教員としての姿に迫るイベントとして企画された。トークショーでは、実際におおひなたが行っている授業の一部を体験することはもちろん、漫画家として授業で取り上げられる形になっている吉村和真の授業内容も一部披露された。また、トークイベント後は、おおひなたの新刊『レコード大好き小学生カケル』第1巻発売を記念したサイン会も行われた。

[文責=具本媛]

基本情報

日時

2024年6月1日[土] 14:00-15:30

会場

京都国際マンガミュージアム
1階 多目的映像ホール

出演者

おおひなたごう(漫画家、京都精華大学
マンガ学科新世代マンガコース教授)/
吉村和真(京都精華大学マンガ学部教授)/
ユースギョン[司会]

参加者数

約140名

主催

京都精華大学国際マンガ研究センター/
京都国際マンガミュージアム

担当

具本媛/ユースギョン

報道

- ・『毎日新聞』2024年6月24日
「ギャグ漫画家・おおひなたごうさん 教員との「両輪」続けるわけ」
(<https://mainichi.jp/articles/20240613/k00/00m/040/184000c>)

イベント風景



「レコード大好き 小学生カケル」 レコード リスニング パーティー& かとうれい子 ミニコンサート

実施概要 「What an OHINATAful World ～この素晴らしいおおひなたごうの世界～」関連イベントのひとつとして企画された。●おおひなたごうの最新マンガ作品「レコード大好き小学生カケル」の作中に登場し、展覧会にも展示されたおおひなたの私物のレコードを、おおひなたと歌手のかとうれい子の解説と共に聴くイベントを開催した。このイベントは、かとうれい子氏が歌を担当し、4月20日発売された「カケルのテーマ」のレコード発売記念も兼ねており、最後にはかとう氏のライブパフォーマンスとしてその曲が披露された。音のない媒体であるマンガの中のレコードを実際のレコードの音源で楽しむことのできるイベントであった。

[文責=具本媛]

基本情報

日時

2024年4月27日[土] 14:00-16:30

会場

京都国際マンガミュージアム
1階 多目的映像ホール

出演者

おおひなたごう(漫画家)/かとうれい子(歌手)

参加者数

約40名

主催

京都精華大学国際マンガ研究センター/
京都国際マンガミュージアム

担当

具本媛/ユースギョン

イベント風景



おおひなたごう による 「What an OHINATAful World ～この素晴らしい おおひなたごうの 世界～」 ギャラリートーク

実施概要 京都国際マンガミュージアムの閉館後、おおひなたごう本人が、「What an OHINATAful World ～この素晴らしいおおひなたごうの世界～」をガイドするイベント。前期と後期に各1回行なった。●展覧会の企画を担当した国際マンガ研究センターのメンバーと、作品が展示に選ばれた理由や作品制作や掲載における裏話などを語りつつ、展覧会を案内・解説するイベントとして企画された。●閉館後のプライベートな雰囲気と、作家本人による生き生きとした解説によって、おおひなたの漫画家人生を迫体験できた。最後には、おおひなた本人によるギター伴奏を伴う生歌も披露され、作者の多彩な顔に出会える機会を提供した。

[文責=具本媛]

基本情報

日時

- 1 2024年3月16日[土] 17:00-18:30
- 2 2024年6月22日[土] 17:00-18:30

会場

京都国際マンガミュージアム
2階 ギャラリー 1・2・3

出演者

おおひなたごう(漫画家)/
具本媛
(京都精華大学国際マンガ研究センター)

参加者数

- 1 約20名(関係者含む)
- 2 約20名(関係者含む)

主催

京都精華大学国際マンガ研究センター/
京都国際マンガミュージアム

担当

具本媛/ユースギョン

イベント風景



日本マンガ学会 第23回大会 シンポジウム 「マンガと〈展示〉」

基本情報

日時

2024年6月23日[日] 10:30-16:30

会場

京都国際マンガミュージアム
1階 多目的映像ホール

出演者

〈第1部〉

森川嘉一郎(明治大学国際日本学部准教授)/
金澤韻(インディペンデント・キュレーター)/
村田麻里子(関西大学社会学部教授)/
伊藤剛(東京工芸大学芸術学部マンガ学科教授/
[司会])

〈第2部〉

しりあがり寿(マンガ家)/
鷺谷祐也(株式会社FUNDOM!/
イベント企画開発グループ GM)/
イトウユウ(京都精華大学国際マンガ研究センター
特任准教授)/
表智之(北九州市漫画ミュージアム学芸担当係長/
[司会])

参加者数

187名

主催

日本マンガ学会

共催

京都精華大学国際マンガ研究センター/
京都国際マンガミュージアム

実施概要 2006年の設立以来、国際マンガ研究センターおよび京都国際マンガミュージアムは、日本マンガ学会の京都での大会開催に際して、共催者として関わってきた。2018年の第18回大会から4年ぶりの京都開催となった今大会でも、京都精華大学を会場とした研究発表の1日目に続き、2日目は京都国際マンガミュージアムでシンポジウムが催された。●1990年の東京国立近代美術館における「手塚治虫展」の開催以降、「マンガ展」はその場所や方法を拡げながら、近年では、マンガを楽しむ営みの一環としてすっかり定着したと言える。そうした中で、マンガを美術館のような場所で展示することの意味や、ビジュアル・ナラティブとしてのマンガ表現が、単行本や雑誌から展示空間というメディアに置き換えられることによる変化など、「マンガを〈展示〉するとはどういうことか」をめぐる論点が次々と浮上してきている。●第1部「マンガを〈展示〉するということ」では、理論的なアプローチから、マンガ展が登場した社会的背景とともに構造的な問題点について議論された。第2部「ひろがりゆく〈マンガ展〉のかたち」では、イトウが分類した「A」マンガ家の自己表現としてのマンガ展「B」ファンサービスとしてのマンガ展「C」〈研究〉による価値創出を目指すマンガ展」を担っている出演者が、それぞれの実践を紹介することで、マンガ展の幅広さと今後の展開の可能性について議論した。●なお本シンポジウムの詳細な記録は、日本マンガ学会発行の学会誌『マンガ研究』第31号(2025年3月)に掲載予定。 [文責=伊藤遊]

報道

- ・『読売新聞』2024年8月8日
「空前ブームで「学会」熱気 マンガ 展覧会も多様化」

イベント風景



シンポジウムの様子(第1部)。



シンポジウムの様子(第2部)。

ルノー・ルメール トークショー マンガを受け継ぐ マンガからMangaへ、 そしてMangaから マンガへ

実施概要 フランス出身のマンガ家、ルノー・ルメール氏を招いたトークショー。ルメール氏の代表作「ドリームランド」は、2005年に発表されはじめ、現在フランスで第22巻まで刊行されている。夢の中で繰り広げられるリアルなバトルファンタジー作品で、名実ともにフランスを代表するMangaとなっている。●本イベントは、「ドリームランド」の日本での出版を記念し、開催された。日本のマンガ・アニメ、フランス語圏のバンドデシネ、アメリカのディズニー映画などから影響を受け、独自の作品スタイルを築き上げたルメール氏の成長過程と作品制作、マンガ観、フランス産Mangaが誕生していることの意義などが語られた。トークショーではルメール氏によるライブドローイングが行われ、終了後にはサイン会も開催された。

[文責=ユースギョン]

基本情報

日時

2024年11月17日[日] 13:00-15:00

会場

京都国際マンガミュージアム
1階 多目的映像ホール

出演者

ルノー・ルメール(マンガ家)/
ユースギョン[司会]

参加者数

約50名

主催

京都国際マンガミュージアム/
京都精華大学国際マンガ研究センター

共催

関西日仏学館

協力

ユーロマンガ

協賛

笹川日仏財団

担当

ユースギョン

イベント風景



イベントで、ライブドローイングをするルノー・ルメール氏。

フライヤー

フライヤー。(デザイン=上岡杏子)

マンガカフェ シーズン2 第3回 「2024年の マンガ界を 振り返るぞ！」

実施概要 2009年から続くイベントシリーズだが、「シーズン2」の第3回も、過去2回と同様、1年間のマンガ界を振り返った。吉村は、同年鬼籍に入ったマンガ家について語り、倉持は、4月に刊行されたマンガミュージアムの公式ガイドブック『マンガって何？ マンガでわかるマンガの疑問』（マンガミュージアム/IMRC監修/編集、青幻舎）の制作裏話を語った。同書の発売に際しては、「出張！マンガカフェ」と称して、本イベントと同じメンバーによるトークショー「今の時代に120%マンガを楽しむ秘訣」も、6月29日に「梅田Lateral」で開催されている。ユーは、近年存在感を増している、日本で作品を発表している海外出身のマンガ家たちを紹介し、インターネットを介したマンガのグローバル化についての議論を、フロアに促した。イトウは、2024年開催のマンガ展を紹介しつつ、「巡回展スタディーズ」として、「CLAMP展」（於・国立新美術館）/「CLAMP展 SELECTION」（於・ひらかたパーク イベントホール）の展示仕様や運営ポリシーなどの違いを解説、参加者と、社会におけるマンガ（展）の位置付けについて議論した。●イベントの後半は、一般参加者たちによる「今年の1冊」を紹介するコーナーで、盛り上がった。

[文責=イトウユウ]

基本情報

日時

2024年12月21日[土] 14:00-16:00

会場

京都国際マンガミュージアム
2階 ギャラリー 6

出演者

吉村和真(京都精華大学)/
倉持佳代子(京都国際マンガミュージアム)/
ユースギョン(国際マンガ研究センター)/
イトウユウ(国際マンガ研究センター)[司会]

参加者数

リアル参加=33名/
オンライン視聴=のべ23名

主催

京都国際マンガミュージアム/
京都精華大学国際マンガ研究センター

担当

イトウユウ

イベント風景



出演者。|



回覧資料を手にとって読む参加者。|

第2部 展示・イベント等事業レポート

第3章 その他の事業

『マンガって何？ マンガでわかる マンガの疑問』 監修・編集

実施概要 京都国際マンガミュージアムの公式ガイドブックとして刊行された『マンガって何？ マンガでわかるマンガの疑問』の監修・編集を、マンガミュージアムとIMRCが行った。●同書のベースとなっているのは、マンガミュージアムの常設展示「マンガって何？」である。この展示は、日本のマンガ文化の特徴を、小中学生や海外からの来館者——つまり、日本マンガについて詳しくない人たちに理解してもらうことを想定しつつ、当時、IMRC副センター長だったジャクリーヌ・ベルント氏監修で制作され、2010年に開設した。この常設展示は2020年にマイナーチェンジされたが、同書に直接反映されているのはその改訂版展示である。●同書には複数のコラムが挟まれているが、過去にIMRCに所属した研究者たち——猪俣紀子(茨城大学)、岩下朋世(相模女子大学)、表智之(北九州市漫画ミュージアム)、小川剛(京都精華大学)、雑賀忠宏(開志専門職大学)、杉本ジェシカ(龍谷大学)の各氏も執筆を担当している。

[文責=イトウユウ]

基本情報

監修・編集

京都国際マンガミュージアム/京都精華大学
国際マンガ研究センター

イラスト

ホリグチイツ

アートディレクション

Neki inc.

発行

青幻舎

発行日

2024年4月11日

判型

A5

総頁

144頁

製本

並製

定価

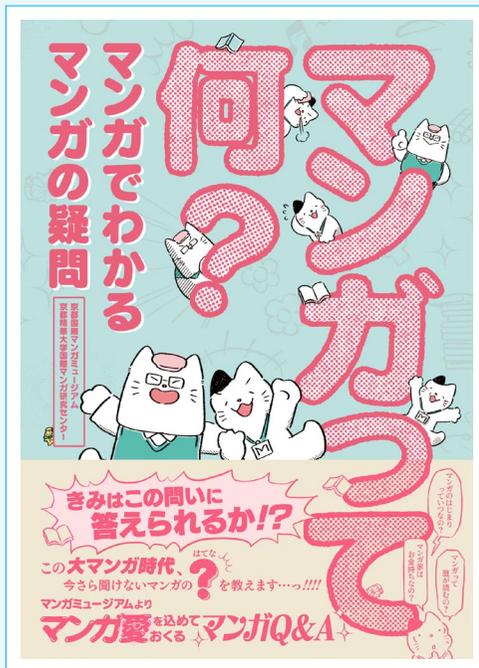
1,980円(本体1,800円)

ISBN

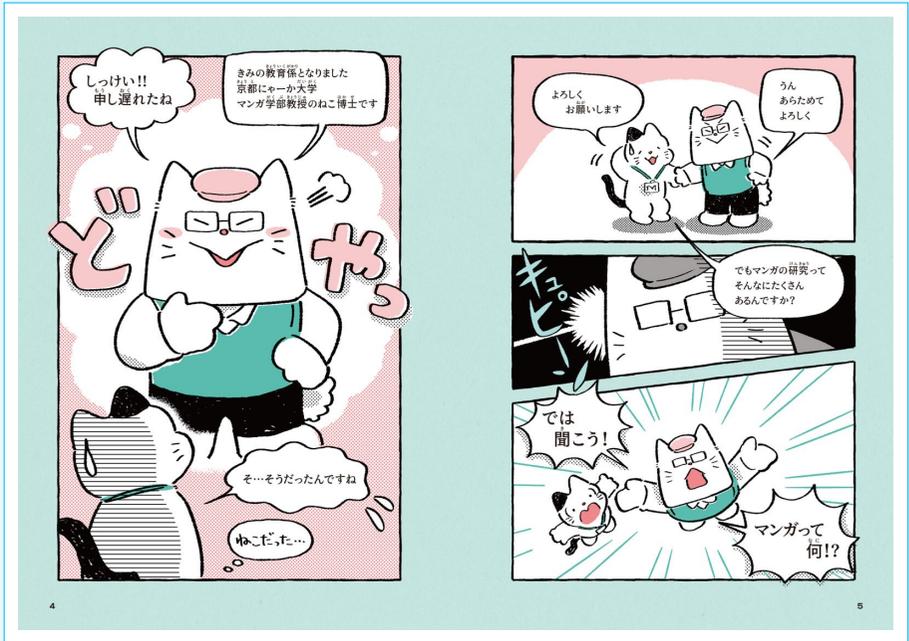
978-4-86152-950-4

C0079

書影



「マンガって何？
マンガでわかる
マンガの疑問。」



マンガメディア年表 明治～大正

この年表は、新しい印刷技術によって、さらに大量複製が可能になった明治時代(1868-1912年)以降から始まります。近代に発達し、数多くの作者と読者をつないだ新聞や雑誌。こうしたメディアの登場こそ、マンガが大衆娯楽として発達していくための条件でした。マンガが発展していく流れを明治時代から平成時代頃までざっくりご紹介します！

1 THE JAPAN PUNCH 1863年5月号
1862年創刊

2 『読者報』(日本橋) 1874年創刊

3 小説雑誌『読者』(読者社)
『読者報』(読者社) 1865年5月号 読者社
『読者報』(読者社) 1877年創刊 読者社

4 『少年』(少年社) 1905年創刊
少年社

5 『少年』(少年社) 1907年創刊
少年社

6 『少年』(少年社) 1909年創刊
少年社

7 『少年』(少年社) 1910年創刊
少年社

8 『少年』(少年社) 1911年創刊
少年社

9 『少年』(少年社) 1912年創刊
少年社

10 『少年』(少年社) 1913年創刊
少年社

11 『少年』(少年社) 1914年創刊
少年社

12 『少年』(少年社) 1915年創刊
少年社

13 『少年』(少年社) 1916年創刊
少年社

14 『少年』(少年社) 1917年創刊
少年社

15 『少年』(少年社) 1918年創刊
少年社

16 『少年』(少年社) 1919年創刊
少年社

17 『少年』(少年社) 1920年創刊
少年社

18 『少年』(少年社) 1921年創刊
少年社

19 『少年』(少年社) 1922年創刊
少年社

20 『少年』(少年社) 1923年創刊
少年社

21 『少年』(少年社) 1924年創刊
少年社

22 『少年』(少年社) 1925年創刊
少年社

23 『少年』(少年社) 1926年創刊
少年社

24 『少年』(少年社) 1927年創刊
少年社

25 『少年』(少年社) 1928年創刊
少年社

26 『少年』(少年社) 1929年創刊
少年社

27 『少年』(少年社) 1930年創刊
少年社

28 『少年』(少年社) 1931年創刊
少年社

29 『少年』(少年社) 1932年創刊
少年社

30 『少年』(少年社) 1933年創刊
少年社

31 『少年』(少年社) 1934年創刊
少年社

32 『少年』(少年社) 1935年創刊
少年社

33 『少年』(少年社) 1936年創刊
少年社

34 『少年』(少年社) 1937年創刊
少年社

35 『少年』(少年社) 1938年創刊
少年社

36 『少年』(少年社) 1939年創刊
少年社

37 『少年』(少年社) 1940年創刊
少年社

38 『少年』(少年社) 1941年創刊
少年社

39 『少年』(少年社) 1942年創刊
少年社

40 『少年』(少年社) 1943年創刊
少年社

41 『少年』(少年社) 1944年創刊
少年社

42 『少年』(少年社) 1945年創刊
少年社

43 『少年』(少年社) 1946年創刊
少年社

44 『少年』(少年社) 1947年創刊
少年社

45 『少年』(少年社) 1948年創刊
少年社

46 『少年』(少年社) 1949年創刊
少年社

47 『少年』(少年社) 1950年創刊
少年社

48 『少年』(少年社) 1951年創刊
少年社

49 『少年』(少年社) 1952年創刊
少年社

50 『少年』(少年社) 1953年創刊
少年社

51 『少年』(少年社) 1954年創刊
少年社

52 『少年』(少年社) 1955年創刊
少年社

53 『少年』(少年社) 1956年創刊
少年社

54 『少年』(少年社) 1957年創刊
少年社

55 『少年』(少年社) 1958年創刊
少年社

56 『少年』(少年社) 1959年創刊
少年社

57 『少年』(少年社) 1960年創刊
少年社

58 『少年』(少年社) 1961年創刊
少年社

59 『少年』(少年社) 1962年創刊
少年社

60 『少年』(少年社) 1963年創刊
少年社

61 『少年』(少年社) 1964年創刊
少年社

62 『少年』(少年社) 1965年創刊
少年社

63 『少年』(少年社) 1966年創刊
少年社

64 『少年』(少年社) 1967年創刊
少年社

65 『少年』(少年社) 1968年創刊
少年社

66 『少年』(少年社) 1969年創刊
少年社

67 『少年』(少年社) 1970年創刊
少年社

68 『少年』(少年社) 1971年創刊
少年社

69 『少年』(少年社) 1972年創刊
少年社

70 『少年』(少年社) 1973年創刊
少年社

71 『少年』(少年社) 1974年創刊
少年社

72 『少年』(少年社) 1975年創刊
少年社

73 『少年』(少年社) 1976年創刊
少年社

74 『少年』(少年社) 1977年創刊
少年社

75 『少年』(少年社) 1978年創刊
少年社

76 『少年』(少年社) 1979年創刊
少年社

77 『少年』(少年社) 1980年創刊
少年社

78 『少年』(少年社) 1981年創刊
少年社

79 『少年』(少年社) 1982年創刊
少年社

80 『少年』(少年社) 1983年創刊
少年社

81 『少年』(少年社) 1984年創刊
少年社

82 『少年』(少年社) 1985年創刊
少年社

83 『少年』(少年社) 1986年創刊
少年社

84 『少年』(少年社) 1987年創刊
少年社

85 『少年』(少年社) 1988年創刊
少年社

86 『少年』(少年社) 1989年創刊
少年社

87 『少年』(少年社) 1990年創刊
少年社

88 『少年』(少年社) 1991年創刊
少年社

89 『少年』(少年社) 1992年創刊
少年社

90 『少年』(少年社) 1993年創刊
少年社

91 『少年』(少年社) 1994年創刊
少年社

92 『少年』(少年社) 1995年創刊
少年社

93 『少年』(少年社) 1996年創刊
少年社

94 『少年』(少年社) 1997年創刊
少年社

95 『少年』(少年社) 1998年創刊
少年社

96 『少年』(少年社) 1999年創刊
少年社

97 『少年』(少年社) 2000年創刊
少年社

98 『少年』(少年社) 2001年創刊
少年社

99 『少年』(少年社) 2002年創刊
少年社

100 『少年』(少年社) 2003年創刊
少年社

101 『少年』(少年社) 2004年創刊
少年社

102 『少年』(少年社) 2005年創刊
少年社

103 『少年』(少年社) 2006年創刊
少年社

104 『少年』(少年社) 2007年創刊
少年社

105 『少年』(少年社) 2008年創刊
少年社

106 『少年』(少年社) 2009年創刊
少年社

107 『少年』(少年社) 2010年創刊
少年社

108 『少年』(少年社) 2011年創刊
少年社

109 『少年』(少年社) 2012年創刊
少年社

110 『少年』(少年社) 2013年創刊
少年社

111 『少年』(少年社) 2014年創刊
少年社

112 『少年』(少年社) 2015年創刊
少年社

113 『少年』(少年社) 2016年創刊
少年社

114 『少年』(少年社) 2017年創刊
少年社

115 『少年』(少年社) 2018年創刊
少年社

116 『少年』(少年社) 2019年創刊
少年社

117 『少年』(少年社) 2020年創刊
少年社

118 『少年』(少年社) 2021年創刊
少年社

119 『少年』(少年社) 2022年創刊
少年社

120 『少年』(少年社) 2023年創刊
少年社

121 『少年』(少年社) 2024年創刊
少年社

2010年に開設された
マンガミュージアム
旧・常設展示(左)と、
2020年に
マイナーチェンジされた
現・常設展示(右)。



国内外での 展示等 協力事業

国内における協力事業

- 「佐藤史生原画展 決して眠らない魚のみる夢」
IMRC/京都国際マンガミュージアムが所蔵する、佐藤史生作品原画が全面的に活用された展覧会。4期に分け、約100点の作品(マンガ、イラスト、スケッチ等)の原画が紹介された。この展示に伴って、原画の整理がより進み、また、ビジュアルブック『総特集 佐藤史生 少女マンガが夢見た未来』(河出書房新社、2024年)の出版も実現した。

担当 ユースギョン

期間 2024年6月28日[金]–10月20日[日]

会場 明治大学 米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館

主催 明治大学 米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館

協力 京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター/
河出書房新社/図書の家/川崎市市民ミュージアム



「佐藤史生原画展」
会場の様子。

- 「マンガと戦争展」
京都国際マンガミュージアムの企画展として2015年に制作された「マンガと戦争展 6つの視点と3人の原画から」はこれまで、国内2ヶ所、海外3ヶ所に巡回したが、本年度はさらに、以下の施設に巡回展示された。テーマの数は6つから4つ(「原爆」「特攻」「満州」「沖縄」)に減ったが、平和ミュージアムらしい補助解説と追加資料で、それぞれの内容はより充実したものとなっていた。また、同館オリジナルコーナーとして、おざわゆき「あとかたの街」、汐見夏衛・原作/マツセダイチ・マンガ「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」がリベラル紹介される「2つの物語」というコーナーが追加された。

担当 イトウユウ

期間 2024年7月23日[火]–9月14日[土]

会場 戦争と平和の資料館 ピースあいち

主催 戦争と平和の資料館 ピースあいち

協力 京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター



「マンガと戦争展」
ピースあいち展
会場の様子。

「吾妄之境」展
会場の様子。

- 「吾妄之境 The Fantasy Wonderland」展
BL(ボーイズラブ)をテーマとする大規模展覧会に、
竹宮恵子氏の原画(ダッシュ)100点が出展された。
これは、東アジアにおける初めての原画(ダッシュ)出展協力となった。

担当 ユースギョン

期間 2024年11月15日[金]–2025年3月16日[日]

会場 台南市美術館[台湾・台南市]

主催 台南市美術館



- 「CUTE」展
「CUTE(かわいらしき)」をテーマに、それが反映された様々な文化を、
「CUTE」をテーマとするアート作品と共に紹介する話題の展覧会に、
60年代–90年代の少女マンガ雑誌を提供するという形で協力した。
同展においては、サンリオのキティや水森亜土のイラストなど、
日本の少女カルチャーの影響が重視されていた。

担当 ユースギョン

期間 2024年1月25日[木]–4月14日[日]

会場 Somerset House [英国・ロンドン]

主催 Somerset House

マンガ資料の アーカイブ事業

実施概要 国際マンガ研究センター(IMRC)/京都国際マンガミュージアムは、設立以来、マンガ資料(当初はマンガ刊本、後にマンガ原画)のアーカイブ——〈収集〉〈整理・保存〉〈活用〉——の実践を目的のひとつとしてきた。●2010年度に始まる「メディア芸術情報拠点・コンソーシアム構築事業」以降は、マンガアーカイブの体制を推進するネットワークの構築とハブとなる拠点の確立を目的とする文化庁メディア芸術事業の重要な役割を、IMRCは担い続けている。●文化庁事業は、産官学連携を通じたメディア芸術の振興を目指してきたが、その結果として、出版社による賛助金の出資と参加を得て、2024年6月に「一般社団法人マンガアーカイブ機構(MAC)」が設立、IMRCのセンター員はそこでも中心的な役割を担っている。

文化庁メディア芸術事業

基本情報

担当

吉村和真(「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」および「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」統括アドバイザー)/
伊藤遊(同統括アドバイザー支援)

実施概要 文化庁によるメディア芸術アーカイブ事業の第3フェーズと言える「メディア芸術連携基盤等整備推進事業」の最終年度(5年目)の事業として、「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」および「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」という2つの事業が実施され、IMRC/京都国際マンガミュージアムは、連携機関として参加した。●同事業に関しては、戦略立案および事業評価等にIMRCのセンター員が委員として参画している。

事業一覧

● 「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

実施事業

(「実施計画書」より)

- マンガ刊本アーカイブセンター(MPAC)の実装及び刊本資料のさらなる利活用推進のための調査研究
- 刊本ネットワーク所蔵リストの構築準備
- 刊本プール資料の仕分けと移送に関する作業実験と検証結果の報告
- 原画/刊本事業の合同会議開催

連携機関・団体

- 国立大学法人熊本大学(事業者)
- 明治大学 米沢嘉博記念図書館
- 京都精華大学/京都国際マンガミュージアム
- 北九州市漫画ミュージアム
- 高知まんがBASE
- NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト/合志市マンガミュージアム
- 少女まんが館

● 「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」

実施事業

(「事業計画書」より)

- マンガ原画アーカイブセンター(MGAC)の実装と所蔵館連携に向けた調査研究
- 相談窓口の開設
- 所蔵館ネットワークの構築
- 専門人材の育成
- 収益事業及び支援体制構築の調査
- 「集英社マンガアートヘリテージ(SMAH)」との連携による原画保存に関する共同研究の実践
- 原画/刊本事業の合同会議開催

連携機関・団体

- 一般財団法人
横手市増田まんが美術財団(事業主)
- 横手市増田まんが美術館
- 明治大学
- 京都精華大学/京都国際マンガミュージアム
- 北九州市漫画ミュージアム
- 熊本大学
- NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト
- 鳥取県北栄町
- 石ノ森萬画館
- 湯前まんが美術館

「一般社団法人マンガアーカイブ機構(MAC)」事業

基本情報

担当

吉村和真(MAC理事)
伊藤遊(MAC有識者会議委員)

実施概要 MACが申請し、交付を受けた、文化庁「メディア芸術アーカイブ推進支援事業」に協力する形で、森下清文氏、加藤泰三(F・M ロッカー)氏のマンガコレクション約10万点を「けい・いはんなオープンイノベーションセンター(KICK)」(京都府相楽郡精華町)および京都国際マンガミュージアムにプール(仮預かりおよび簡易整理)し、それらのメタデータを、マンガミュージアムの資料データベース「MM-OPAC」で公開した。

アニメーション 資料の アーカイブ事業

「精華ArchiveD」事業

基本情報

担当

藤田健次/関口正春(学長室グループ)

実施概要 京都精華大学の協定先である京都府精華町が2023年度より実施している「文化庁京都移転を契機とした京都からの文化創造・発信事業」(内閣府:デジタル田園都市国家構想交付金(新しい地方経済・生活環境創生交付金)採択事業)の一環として企画された「アニメ・アーカイブデータ化及び利活用実証事業」を受託し、精華町と、株式会社ワンピリングとの産学官連携にてアニメーション資料のアーカイブ事業(通称「精華ArchiveD」)に取り組み、以下の研究活動を実施した。

- 1 アニメーション中間生成物(カット袋内資料:原画、動画、タイムシート等)のデジタル化
- 2 先行するアーカイブ実施団体とのメタデータ項目に関する研究会の開催(3回)
- 3 研究成果の公開、アウトリーチ
 - ・ 学内向け成果説明会の開催
 - ・ 在学生による「精華ArchiveD」展示会の開催(精華町にて3回開催)
 - ・ 在学生による「精華ArchiveD」小冊子の作成、配布

上記活動と併せ、文化庁へのオンライン説明会および現地視察対応を実施した。

京都国際マンガミュージアム / IMRC所蔵資料 および画像データ提供一覧(2024年1月-12月)

貸出

資料名	データ/現物	提供先	用途
<ul style="list-style-type: none"> 『週刊マーガレット』1969年5月25日号 (浦野千賀子「アタックNo.1」表紙号、集英社、1969年) 『週刊マーガレット』1972年5月21日号 (池田理代子「ベルサイユのばら」表紙号)、集英社、1972年 『週刊少女コミック』1976年2月29日号 (竹宮恵子「風と木の詩」表紙号)、集英社、1976年 『なかよし』1992年2月号 (武内直子「美少女戦士セーラームーン」表紙号)、講談社、1992年 『なかよし』1996年6月号 (CLAMP「カードキャプターさくら」表紙号)、講談社、1996年 	現物貸出	Somerset House (UK)	「CUTE」展 (於:Somerset House、1/25-4/14) にて展示
<ul style="list-style-type: none"> 『週刊少年ジャンプ』1984年12月3日号 (鳥山明「DROGON BALL」連載開始号)、集英社、1984年 『週刊少年ジャンプ』1994年4月4日号 (鳥山明「DROGON BALL」表紙号)、集英社、1994年 『週刊少年ジャンプ』1980年7月7日号 (鳥山明「Dr.スランプ」表紙号)、集英社、1980年 『週刊少年ジャンプ』1981年8月31日号 (鳥山明「Dr.スランプ」表紙号)、集英社、1981年 	現物撮影	中日新聞	「鳥山明さんを悼む」 (「中日新聞」2024年4月19日)に掲載
<ul style="list-style-type: none"> 富永一郎「ボンコツおやじ」『漫画サンデー』 1960年2月22日号、実業之日本社、1960年 「漫画特集 富永一郎最新傑作集」『漫画サンデー』 1962年3月24日号、実業之日本社、1962年 富永一郎「レコードになるボンコツおやじ」『漫画サンデー』 1962年3月31日号、実業之日本社、1962年 富永一郎「[無題]」『漫画サンデー』 1967年9月13日号p.p.22-25、実業之日本社、1967年 	現物貸出	吉備川上ふれあい 漫画美術館	「開館30年記念 富永一郎展～原画を読む」 (於:吉備川上ふれあい漫画美術館、 4/27-6/30)にて展示
<ul style="list-style-type: none"> 『週刊少年ジャンプ』1984年12月3日号 (鳥山明「DROGON BALL」連載開始号)、集英社、1984年 『週刊少年ジャンプ』1994年4月4日号 (鳥山明「DROGON BALL」表紙号)、集英社、1994年 	撮影データ貸出	内閣府	「THE INPACT ON WORLD MANGA CULTURE AND LEGACY OF TORIYAMA AKIRA」 (オンラインマガジン「KIZUNA」5/24配信) に掲載
<ul style="list-style-type: none"> 竹宮恵子「永遠と陽炎」と「青い夕暮れ」「秋菊の舞」 原画ダッシュ 3点 花村えい子「霧の中の少女」「霧の中の少女」 「ショウワノート マドレーヌ 着せ替え」原画ダッシュ 3点 西谷祥子「マリイ・ルウ」「レモンとサクランボ」ほか 原画ダッシュ 3点 忠津陽子「美人はいかがが?」「海の歌」ほか原画ダッシュ 3点 飛鳥幸子「怪盗紳士♥アシモフ教授の華麗な冒険」 「最高に幸せ」ほか原画ダッシュ 3点 『週刊マーガレット』1966年12月18日号 (花村えい子「霧の中の少女」掲載号)、集英社、1966年 『週刊マーガレット』1970年4月12日号 (忠津陽子イラスト表紙号)、集英社、1970年 『週刊マーガレット』1972年8月6日32号 (西谷祥子イラスト表紙号)、集英社、1972年 『月刊マンガ少年』1979年5月号 (竹宮恵子「地球へ…」掲載号)、朝日ソノラマ、1979年 『怪盗こうもり男爵』新書館、1979年 	現物貸出	川口市立 情報・映像 メディアセンター メディアセブン	「原画」(ダッシュ) 少女マンガの世界 マンガ原画の保存と活用」 (於:川口市立情報・ 映像メディアセンターメディアセブン。 5/25-7/28)にて展示
<ul style="list-style-type: none"> 「日本犬デー、街で見た風景」『東京パック』 1936年7月号、東京パック社、1936年 	データ貸出	河合塾	河合塾マナビス(高校生対象) 共通テスト対策 歴史総合・日本史探求 「近代」習得度テストに掲載

・ 佐藤史生作品原画	現物貸出	明治大学 米沢嘉博 記念図書館	「佐藤史生原画展 決して眠らない魚(うお)のみる夢」 (於・明治大学 米沢嘉博記念図書館、 6/28-10/20)にて展示
・ 佐藤史生作品原画	現物貸出	河出書房新社	「佐藤史生原画展」 (於・明治大学 米沢嘉博記念図書館) で展示された作品を中心に 『総特集 佐藤史生 少女マンガが夢見た未来』 (河出書房新社、2024年)に掲載
・ 『週刊少年ジャンプ』1973年6月4日号 (中沢啓治「はだしのゲン」連載開始号)、集英社、1973年 ほか書籍資料56点	現物貸出	戦争と平和の 資料館 ピースあいち	「マンガと戦争展」 (於・ピースあいち、7/23-9/14)にて展示
・ よしながふみ『きのう何食べた?』第1巻、講談社、2007年 ・ ナナトエリ/亀山聡『僕の妻は発達障害』第1巻、 新潮社、2020年 ・ トマトスープ『天暮のジャードゥーガル』第1巻、秋田書店、2022年	現物撮影	京都新聞	「漫画は時代と直結 本音表れるメディア」 (『京都新聞』2024年8月2日)に掲載
・ 『時事漫画』(『時事新報』1922年5月28日付録)	データ貸出	NHK	NHK Eテレ 『偉人の年取How much?』 (10/21放映)にて放映
・ 「日本漫画家聯盟北海道支部主催第1回漫画展ラン会目録」	データ貸出	三人社	『日本漫画家聯盟機関誌 ユウモア【復刻版】』(三人社、2024年) に掲載
・ 『絵新聞日本地』第1号、神奈垣魯文/河鍋暁斎、1874年 ・ 『THE JAPAN PUNCH』1883年5月号、 Charles Wirgman、1883年 ・ 『TÔBAÉ』10号、Georges Ferdinand Bigot、1887年 ・ Rodolphe Töpffer 『Monsieur Pencil』 Garnier Frères、1860年	現物撮影	新潮社	『芸術新潮』2024年12月号 (特集「決定版 大京都」)(新潮社、2024年) に掲載
・ 田川水泡『のらくろ漫画集』講談社、1975年 ・ 西田静二『ロリタ姫と謎の騎士』榎本法令館 ・ 東風人・作、織田小星・画『正チャンの冒険(復刻版) 小学館クリエイティブ、2003年 ・ 謝花凡太郎『魔法の明ちゃん』中村書店、1933年 ・ 本田充臣『ふしぎな騎士 童話長編漫画』榎本法令館 ・ 宮春子『空中の木馬 漫画物語』榎本法令館 ・ 夢野凡『風船豆助 道中記:明朗時代漫画』榎本法令館 ・ 田河水泡『のらくろ二等兵』(名作リバイバルシリーズ) 普通社、1962年 ・ 林田正『チン吉の冒険』少年倶楽部、1931年 ・ 木内千鶴子、星城朗二『ゆめ』若木書房 ・ 横山まさみち『悪党ぞろい』横山プロダクション ・ 辰巳ヨシヒロ『マクベス復讐せよ』『ミステリー』62、 ホープ書房、1960年 ・ 辰巳ヨシヒロ『風花の挽歌』『週刊少年マガジン』 1970年11月1日号講談社、1970年 ・ オオトモ・ヨンヤス『影のない少女』中村書店、1952年	データ貸出	Stockholm University Press	I-Yun Lee (李衣雲) 『Taiwan Comics: History, Status, and Manga Influx 1930s-1990s』 (Stockholm University Press、2024年) に掲載

寄贈

資料名	データ/現物	提供先	用途
1970年代前半発行の 『週刊少年ジャンプ』『週刊少年サンデー』『週刊少年マガジン』 55点	現物再寄贈	熊本大学	
1970年代前半発行の 『週刊少年ジャンプ』『週刊少年サンデー』『週刊少年マガジン』 14点	現物再寄贈	広島市まんが 図書館	
1970年代前半発行の 『週刊少年ジャンプ』『週刊少年サンデー』『週刊少年マガジン』 6点	現物再寄贈	明治大学 米沢嘉博 記念図書館	

原画'(ダッシュ) プロジェクト

基本情報

担当
ユースギョン

実施概要「原画'(ダッシュ)」とは、コンピューターに原画を取り込んで色調整を重ねた上で印刷された、原画と並べても見分けのつかないほど精巧なマンガ原稿の複製である。退色しやすいデリケートなマンガ原稿の保存と公開を両立させるために開発され、マンガ家で京都精華大学元学長の竹宮恵子氏をプロジェクトリーダーに、京都精華大学国際マンガ研究センターと京都国際マンガミュージアムが共同で研究を進めている。●原画'(ダッシュ)プロジェクトでは、2001年以来、監修者・竹宮氏を含む作家28名の約900点の原画'(ダッシュ)を制作している。(2023年をもって新規制作は終了)●今後の国際展開の拡大や継続のために、今年度は原画'(ダッシュ)関連冊子の各言語版(日・英・韓・中)のデータを更新し、年度末まで一部増刷も行う予定である。

国内外における原画'(ダッシュ)の活用 原画'(ダッシュ)は、破損や紛失したら取り返しが見つからない原画に替わって、国内だけでなく、フランス、ドイツ、オーストラリアなど、海外の展覧会にも積極的に出品されてきた。2024年度には、台湾の台南市美術館で2024年11月15日から2025年3月16日までに開催された「吾妄之境 The Fantasy Wonderland」に竹宮恵子氏の原画'(ダッシュ)が¹出展され、東アジアにおける初めての原画'(ダッシュ)出展協力となった。

IMRCメンバー業績等(2024年1月-12月)

業績一覧

小泉真理子 Koizumi Mariko	学会発表	・ 「日本の伝統実演芸術におけるマネジメントの変遷」 日本アートマネジメント学会第26回全国大会(於・札幌市教育文化会館、2024年12月15日)
	研究助成	・ 科学研究費助成事業(基盤C) 「日本の能楽から解明する伝統実演芸術の経済的自立手法に関する実証研究」研究代表者
	社会活動	・ 総務省情報通信政策研究所 特別研究員 ・ 情報通信学会学会誌 理事 及び 編集委員
伊藤遊-イトウユウ Ito Yu	論説	・ 「「架空の通学路について」についての架空の考現学講義 あるいは〈考現学マンガ〉研究序説」 『ユリイカ』2024年1月号(特集=panpanya)、青土社、2024年1月
	コラムなど	・ 「台湾のマンガ/展における〈歴史〉感覚——〈生活〉・〈政治〉・〈歴史〉」 『臺灣租書店與漫畫史的奇妙旅程 [漫画史不思議旅行 貸本屋さんと漫画の一〇〇年]』 [同名展カタログ] 國立臺灣歷史博物館、2024年3月
		・ 「マンガから民俗学を考える「日常系」マンガ、「考現学マンガ」、エッセイマンガ」 『現代思想』2024年5月号(特集=民俗学の現在)、青土社、2024年5月
		・ 「原田重光・原作、乙川灯・漫画、清水茜・監修「はたらく細胞Lady」 学校で読む教科書マンガから、「おうち」エンタメとしての学習マンガへ」 『現代性教育研究ジャーナル』NO.158、日本性教育協会、2024年5月
	講演など	・ 講演「日本のマンガアーカイブ」 (「韓国マンガ・Webtoon学会春季国際学術大会 マンガと記録」、オンライン、2024年4月12日、 韓国マンガ・Webtoon学会・主催)
		・ 講演「マンガと/て観光!?!」 (陽明寺創建五五〇周年記念事業、於・陽明寺、2024年5月3日、陽明寺・主催)
		・ シンポジウム登壇 「日本マンガ学会第23回大会シンポジウム マンガと〈展示〉」 第2部 ひろがりゆく〈マンガ展〉のかたち (於・京都国際マンガミュージアム、2024年6月23日、日本マンガ学会・主催)
		・ 鼎談(手塚るみ子/吉村和真)「「ブラック・ジャック展」スペシャルトークイベント」 (於・美術館「えき」、2024年9月1日、美術館「えき」・主催)
		・ 講演「戦後昭和マンガ史」 (令和6年度「れきはく講演会」、於・兵庫県立歴史博物館、2024年10月13日、兵庫県立歴史博物館・主催)
		・ 講演「〈戦後〉史としての戦争マンガ」 (於・京都国際マンガミュージアム、2024年12月5日、ディボール大学・主催)
	・ 対談(佐藤守弘)「静止した映画・動く劇画」 (「おもちゃ映画ミュージアム第一幕終幕記念 活弁上演で蘇るキネマ画「忠臣蔵」」、 於・同志社大学、2024年12月8日、同志社・主催)	
展覧会	・ キュレーション「のこす!いかす!! マンガ・アニメ・ゲーム展」 (於・京都国際マンガミュージアム、2024年11月23日-2025年3月31日)	
その他	・ 科学研究費助成事業(基盤C) 「「学習マンガ」の表現構造と制作現場における意味生成プロセスの実証的研究」 (研究代表者=山中千恵)研究分担者	
	・ 科学研究費助成事業(基盤C) 「1930~50年代児童雑誌における「学習マンガ」ジャンルの形成に係る実証的研究」 (研究代表者=瀧下彩子)研究分担者	
	・ 挑戦的研究(萌芽)「メディア文化研究における研究データ蓄積・共有環境のモデル構築」 (研究代表者=喜多千草)研究分担者	
	・ 文化庁メディア芸術連携等基盤推進事業 「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」/ 「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」コーディネーター支援	
	・ 熊本県湯前町まなかのまちづくりアドバイザー	
	・ 一般社団法人マンガアーカイブ機構(MAC) 有識者会議委員	

具本媛 Koo Bon Won	<p><u>書籍</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>The Cambridge companion to manga and anime</i>, Cambridge University Press, 2024 (共著、「14 Manga Editors and Their Artists」担当) <p><u>展覧会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「What an OHINATAful World ～この素晴らしきおひなたごうの世界～」 (於・京都国際マンガミュージアム、2024年3月14日～6月25日) 企画 <p><u>セミナー出演</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セミナー出演「マンガの新機軸——縦読みマンガが拡張する物語——」 (令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業成果発表イベント「ENCOUNTERS」サテライト企画、於・FabCafe Tokyo, 2024年2月21日) ・ セミナー出演「日本マンガ高等教育の現状と展望」 (日本Webtoon市場進出戦略セミナー、於・チョンガン大学、2024年1月16日)
住田哲郎 Sumida Tetsuro	<p><u>論文報告等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住田哲郎・山中司・牛窪隆太(2024)「生成AI時代の言語文化教育を考える——新たなアプローチと課題の模索——」『言語文化教育研究』22号, pp.273–285, 言語文化教育研究学会. ・ 住田哲郎・山中司・牛窪隆太(2024)「第5分科会 ことばの教育はいかに変わる“べき”か」『大学コンソーシアム京都 第29回FDフォーラム報告集』, pp.85–100. ・ 住田哲郎(2024)「役割語とキャラクターの関係性——いわゆる(王様語)の分析を通じて——」『京都精華大学紀要』57号, pp.85–90. <p><u>講演・学会等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 口頭発表「日本語母語話者のライティングにおける丁寧体・普通体の併用に関する一考察」台湾日本語学会 2024年台湾日本語学会国際学術シンポジウム(中国文化大学), 2024年12月14日 ・ 講演「日本語が創るキャラクターの世界」2024年度 花園大学日本文学科公開講演会(花園大学), 2024年11月30日 ・ 口頭発表「日本語の作文指導における文体の統一と混用について——学習者のより豊かな作文表現力の向上を目指して——」(加藤伸彦・津坂朋宏・黄慧・劉との共同研究発表)日本語教育学会 2023年度第4回支部集会(オンライン), 2024年3月16日 <p><u>発表</u></p>

第3部 おわりに

マンガ業界にマンガ研究界限と、2024年もさまざまな出来事があった。慌ただし
く過ぎ去っていくそんな1年間をふりかえるために、毎年末に開催しているのがト
クイベント「マンガカフェ」である。2009年に第1回を開催して以来、足かけ15年、
当センターの名物企画としてすっかり定着している。

2021年までの12年間は、大阪大学と本学の共催事業として京阪電車「な
にわ橋」駅のコンコースにあるイベントスペース「アートエリアB1」で実施。オー
プン参加の形態で、日本マンガ学会関西支部のメンバーや京都精華大学の関係
者も多く集まる。開催趣旨ともあいまって、顔見知りによる忘年会のような雰囲気
だ。その年の目立った研究動向や展覧会の様子、各自がお気に入りのマンガ作
品などを紹介するという、ゆるやかながらも有用な情報共有と人的交流の機会を
担ってきた。2022年からは会場を京都国際マンガミュージアムに移した¹が、コロ
ナ禍の経験を活かし、現在はオンライン視聴も可能な環境にある。

このマンガカフェで恒例となっている話題の一つに、当年の物故者のお知ら
せがある。漫画家や研究者など、私的に親しんだり仕事を通じてお世話になっ
たりした方々のお名前とご功績をふりかえるわけだが、2024年も少なくない惜別が
あった。

ただ、年末のイベント当日には言及できなかった故人もおられた。ここで、そ
のお二方についてお知らせしたい。

お一方は、中島隆さん。1951年生まれ。高校三年生の時に『COM』の「ぐ
ら・こん」関西支部に入会後、71年に第3代支部長に就任された。72年には『あ
っぷる♥コア』の代表を務められるなど、大阪を拠点として、マンガとファンコミュニ
ティの運動に青春を捧げられた方である。

中島さんの訃報は、マンガカフェの打ち上げの席で、マンガ史研究者の想田
四さんと「図書の家」の小西優里さんから教えていただいた。11月のことだったと
いう。数年前から闘病されていたことはご本人から伺っていたものの、驚くと同時
に今年なぜイベントに参加されていなかったのか腑に落ち、一気に現実感を覚
えた。

中島さんはマンガ学会の関西支部にも参加されていたが、私のほうがほとん
ど出席できておらず、顔見知りになったのは少しあとのことだった。2009年8月2日
に京都国際マンガミュージアムで開催した「伝説のマンガ月刊誌『COM』を語る
一休刊38年目の座談会」に、中島さんが登壇された前後だったと記憶している。

ありがたいことに中島さんは、コロナ禍の時期も含め、いつもマンガカフェとそ
の後の忘年会に参加されていたが、たまたま帰りの電車が一緒だったので、二人
きりで会話することもあった。そんな時は決まって「吉村くん、毎年ここでみんなと
会えるんがうれしいんや」「こんな年寄りの話なんて、なんもおもろくないんやけどな」
と、笑顔で仰っていた。その温厚なお顔と関西弁が鮮明に思い出される。

もうお一方は、村上知彦さん。1951年生まれで、編集者、漫画評論家、大学教員として長年ご活躍された。そのお人柄やご功績については周知の通りだろうし、個人的な思い出も語り尽くせないほどあるので、詳しくは別の機会に譲るとして、ここではマンガカフェ絡みの出来事だけ少し書き留めておきたい。

村上さんもイベントの本番と終了後の忘年会にいつも参加され、気さくに談笑しながら美味しそうにビールをおかわりされるのが常だった。その度、ご本人にはまったくそんな気はないのだろうか、不意にマンガ史上の貴重な証言やご経験上の金言が飛び出すため、耳を澄ませながら酔いが回っていくという濃密な時間を過ごした(これは中島さんも同様である)。

ところが、2015年に肺を患われた村上さんは自宅療養に専念されることとなり、忘年会には参加できなくなってしまわれた。大変ショックだったが、ご本人こそ残念だったに違いない。ただし、いま「忘年会には」と書いた通り、宴会はご欠席だったものの、あらかじめメールで「今年の一作」を選考していただいたり、コロナ禍以降はオンラインで視聴されたり、時には村上さんに伝言を託された息子さんが会場に来られたりと、実はマンガカフェにはご療養中もあの手この手で参加されていた。

そのメールを読み上げる時、息子さんが代弁される時、和やかなイベント会場の雰囲気が一瞬ピリッと引き締まる。「関西には村上さんがいらっしやるのだ」という信頼感と、だからこそしっかり研究しなくてはという畏敬の念が、私たちがマンガカフェを継続する一つの動機だったのだと、今になって身に染みる。

村上さんのご命日は2024年12月22日。マンガカフェの翌日のことだった。改めて、中島さんと村上さん、そして、物故者のみなさんのご冥福をお祈り申上げたい。

結びに、今年末もマンガカフェを開催することを、ここでお約束する。それに限らず、マンガに関心を寄せる人たちが気兼ねなく交流できる場を、これからも積極的かつ継続的に設けていくことも。

ということで、みなさん、年末に京都でお会いしましょう。

2025年2月22日

「京都精華大学国際マンガ研究センター」とは

2006年に創設された京都精華大学国際マンガ研究センター(IMRC)は、京都国際マンガミュージアムを拠点に、マンガ文化全体に関する多面的な研究を実践している機関です。国内外のネットワークを構築する一方、マンガ本やマンガ原画などのアーカイブを行い、研究を進めています。その成果を展覧会やイベントなどの形で公開することで、マンガ文化の価値の創出と向上に貢献しています。

運営体制[2024年度]

センター長

小泉真理子

センター専任教員

伊藤遊=イトウユウ

メンバー

具本媛/佐々木美緒/住田哲郎/松下哲也/レイチェル・ソーン/ユースギョン/吉村和真

センター研究員

藤田健次[株式会社ワンビリング]

京都精華大学国際マンガ研究センター年次報告書 2024

発行日

2025年3月31日

発行元

京都精華大学国際マンガ研究センター
〒604 0846 京都市中京区烏丸通御池上ル
京都国際マンガミュージアム内
tel 075 254 7414 (マンガミュージアム)
fax 075 254 7424 (同)
web <http://imrc.jp>

制作

網島卓也/榊原充大

表紙デザイン

網島卓也

編集

イトウユウ

印刷

株式会社グラフィック

[表紙写真撮影] 浅野豪

[p.07背景] DELETER SCREEN SE-1021 60L

[pp.20-21背景] DELETER SCREEN SE-898

[pp.28-29背景] DELETER SCREEN SE-617 60L

